寄 書

1946 年南海地震の前震と
されている地震について
宇津徳治*

An Earthquake That Has Been Considered to Be
a Foreshock of the 1946 Nankai Earthquake

Tokuji Utsu

Kitami 9-5-18, Setagaya-ku, Tokyo 157, Japan
(Received March 7, 1994; Accepted April 11, 1994)

1946 年 12 月 21 日 04 時 19 分に発生した南海地震の約 2 時間前の 02 時 08 分に、潮岬沖を震央とする有感地震が記録されており（気象要覧，昭和 21 年 12 月号），同地震の直前の前震と考えられてきた〔例えば，鈴木 (1985)〕。1944 年東南海地震には直前の前震は記録されていないが〔鈴木 (1985)，岩田・浜田 (1986)〕，南海地震のとき上記の前震が発生したことから，予想されている東海地震や次回の南海地震の際にも直前の前震発生がある程度期待できると考えられてきた。

潮岬沖の有感地震ならば，震央や規模の推定に役立つ情報があるのではと思い，気象庁の地震調査原簿を調べてみた。原簿の記載内容は以下のとおりである。

官署	震度	到着時	S-P	F-P
樫原	2	21 d 02 h 08 m 34.4s		10 m 29 s
宮崎	0	09	04.0	55.2 s 8 56
酒田	0	10	23.0 1 m 26.5	5 51

宮崎の最大振幅(周期)N: 404 μ (1.7 s), E: 338 μ (1.3 s)
ほかに樫原管内の玉置山で震度 3，荒神岳で震度 2

このデータは不可解である。宮崎の振幅や 3 観測点における 5 分を超える F-P から， M 6.0 程度，あるいはそれ以上の地震と考えられるが，観測報告が来ているのは飛び離れた 3 官署のみである。しかし，別々の地震，あるいは遠い地震と考えるのも無理である。到着時や S-P は潮岬沖の地震としてほしいからである。

この謎はちょうど 1 日後の 22 日 02 時 08 分，潮岬付近に発生した余震のデータの中に，上記樫原，宮崎とまったく同じものが含まれていることを発見し解決した。この余震は M 5.6 という大きなもので，数十地点の観測データがある。樫原，宮崎，酒田のデータはそれらと調和し，この余震のものであることに間違いない。すなわち，樫原（区内観測を含む）と宮崎のデータを 21 日と 22 日に重複記載し，酒田のデータを 21 日に記載したため，上記のまぼろしのデータセットが生じてしまったのである。

このようにして，南海地震の直前の前震とされてきた地震は実在しないことが判明した。このことは東海地震や南海地震の予知に際し心得ておく必要があろう。

文 献

岩田孝仁・浜田信生，1986，1944 年東南海地震前後の地震活動，地震 2, 39, 621-634.
鈴木雄次，1985，図説 前震の記録，個人出版，164 pp.

* 〒157 東京都世田谷区喜多見 9-5-18